



三春中学校だより

第 51 号

発行日 平成 30 年 12 月 18 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

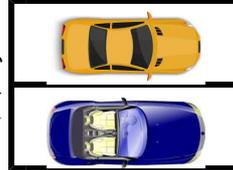
【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【ご理解・ご協力に感謝いたします！ ～全車、駐車線に沿って送迎いただいています。～】

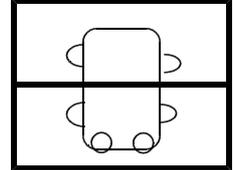
先日、学校だより第 48 号で、交通事故防止のため、安全な送迎や駐車線に沿った駐車・乗降をお願いしたところ、その翌日から駐車線をまたいで送迎車の駐車が『0』となりました。送迎の際のご家族のみなさまのご理解・ご協力に心より感謝申し上げますと共に、今後も安全・安心な登下校につきまして、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

なお、再度、交通安全のための〈確認事項〉を掲載いたしますので、冬季も“生命最優先”で引き続きお願い申し上げます。

※全車この通り



※1台もなし



- 〈確認事項〉
- 全席シートベルト着用（乗車時の確認徹底）
 - 駐車線枠内への駐車（左右の車両と等間隔でゆとりをもって）
 - 冬季の凍結注意と冬用タイヤへの早期の交換（かけがえのないのは『命』）

【清掃にも、心を込めて、ひたむきに！～子どもたちの豊かな心が清掃を支えています。～】

校長室清掃の 1 年生 2 人、3 年生 2 人と一緒に、5 人で校長室と隣の会議室掃除をしています。私は床の雑巾がけ担当と勝手に決めさせていただきました。

三春中学校の清掃は、無言・一斉清掃となっています。放送の音楽と整列のアナウンスで全員が整列し、始まります。

校舎内すべての雑巾掛けの雑巾がきちんと整い、校長室掃除や校務センター清掃ばかりでなく、みんなとても清掃に一生懸命です。普段は一緒に雑巾がけをしているので他の場所の清掃風景を見ることはできませんが、この日は特別に仲間！の 4 人に頼んで、校舎内の清掃風景を見学して回りました。

CG の床を一人丁寧に雑巾がけをしたりモップをかけたりする生徒、大階段を上から下にほうきがけや雑巾がけをする生徒、ゴミ箱のゴミをこぼさないように回収して歩く生徒、少ない人数で教室の椅子・机を運び、ほうきがけ・雑巾がけをする生徒、モップを濡らして昇降口を水拭きする生徒など、いずれの清掃場所も、心を込めて、一生懸命、清掃に取り組んでいました。

校舎全体が、それぞれの分担に従いきれいに掃除され、きれいな環境で生活・学習することができています。いつお客様がみえられても自慢できる学校になっています。

人が見てもいなくても、広い校舎をみんなで分け合い、自らの担当に全力に取り組む生徒、やるべきことに手を抜かず、ひたむきに、心を込めて取り組める生徒が三春中学校の生徒です。『忠恕』『探究』『必達』の精神を胸に活動する生徒であり、それは、生徒の清掃の姿にも表れています。



【「みんなが幸せに暮らすために。」！ ～『つながる食育』公開授業研究会にて～】

12月14日（金）は、文科省指定『つながる食育』公開授業研究会の日でした。

午前中、阿久津先生、齋藤満子先生による公開授業と研究協議、その後、昼食・休憩を挟んで、午後の部は、実践発表、食育講演会と進みました。

午前中の授業では、総合的な学習の時間を使い、これまでの『食育』での学びを振り返り、1年朝食と規則正しい生活、2年食事と運動のバランス、3年バランスのいい食事という学習内容を思い出し、将来・未来の自分にむけた『トリセツ』を作成しました。

これまで、1年生から積み重ねてきた『食育』の内容は、しっかりと子どもたちの中に定着しており、学習を振り返り、思い出すのにさほど時間と労力は必要ありませんでした。昨年度29年度は、自分の『今』に『つなげる』ため、『トリセツ』をご家庭あてに作成しましたが、本年度は、自分の『将来・未来』に『つなげる』ための『トリセツ』としました。彼ら、彼女らが大人になったとき、『食育』の大切さを自覚し、『食育』に対する正しい知識をもって、心身共に健康で生きていけるよう、将来の自分へのメッセージを『手紙』という形でプレゼントとして贈りました。

午後の食育講演会は、郡山女子大学准教授 亀田明美 先生を講師にお願いし、『今と未来がつながる食育』と題してご講演をいただきました。さまざまな食育に関する取り組みや情報をお教えたいただきました。その中で、少し忘れかけていたけれど、とても大切なことに気づかせていただきました。亀田先生の問い「何のための食育ですか?」、規則正しい生活、栄養と運動のバランス、バランスのよい食事など、いろいろ答えを考えてみましたが、亀田先生の答えは、「将来、自分や周りの人たちが幸せな生活、人生を送れるようにするため。」というものでした。

びっくりしました。そうなんです。食べることは生きること、よりよく食べることはよりよく生きることにつながっています。研究にのめり込めばこむほど、本当に大切なことが頭から消えかけていました。子どもたちが、そのご家族が、社会のすべての人々が、『食』を通して『幸せに生きる』ことこそ、『食育』のめざすべきところでした。



【本年もお世話になりました！ ～経営方針を再確認します。～】

屋根の雪が次第に溶けて、したたるしずくの中で朝日が輝いていました。凜と澄み切った青空には、飛行機雲が北へと伸び、その先には、安達太良山が白い雪をいただき、神々しくそびえていました。校舎の土手では、必死に寒さに耐えて滝桜の子孫がしっかりと根を伸ばそうとしています。

本年もたいへんお世話になりました。来年もどうぞよろしく願いいたします。平成31年3月まで、～『命の輝き』共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに～でまいります。よろしくお願いいたします。

